

事業完了報告書（実行団体）

事業名:	虐待等で困窮に陥った人への伴走支援
資金分配団体名:	公益社団法人 ユニバーサル志縁センター
実行団体名:	社会福祉法人子供の家 アフターケア相談所ゆずりは
実施時期:	2021年 8月～2022年 2月
事業対象地域:	東京都
事業対象者:	コロナ禍で生活困窮に陥ったひと

Version 3.2
目付: 2022年xx月xx日

I. 事業概要

事業実施概要	<p>コロナ禍で生活困窮したひとが公的な支援を必要とした時、支援が利用できない相談者への伴走支援 役所、病院、各関係機関への同行などはゆずりはスタッフが一緒に行った。</p> <p>支援対象者はコロナで影響を受けた 30歳未満 東京以外からの相談者とした</p> <p>○住宅支援 一人暮らしのひとの家賃補助手続き申請、住居確保のための初期費用の手続きの同行</p> <p>○医療支援 産婦人科や精神科など命に関わって医療を必要としている相談者の同行支援 自立支援医療制度及び精神保険福祉手帳取得の手続き同行</p> <p>○生活物資支援 生活困窮に陥った人への食糧医療品などの物資支援</p> <p>○修学支援制度を利用して休学などをした人の手続きサポート</p>
--------	---

II. 課題・事業設計の振り返り

課題設定、事業設計に関する振り返り	<p>コロナ禍が可視化した若者たちの困難</p> <p>本助成金の実施期間は約7ヶ月の半年に満たない短い期間ではあったがゆずりはにたどりに着いた多くの相談者をサポートすることができた。</p> <p>助成金対象となる相談者の性別は、事業開始当初は、女性が多くなると予測していたが男性からの相談も多く、年代は20代が多かった。</p> <p>家庭内の虐待やDVなどで苦しんでいる若い男性が、適切な相談期間につながっていない実態も見えた。また、相談件数9月以降に急激に増えた。貯金を使い果たしたり、受けられる給付金などの支援も尽き、生活困窮に陥った背景がある。また、数々の給付金や一時金の制度はあるものの、精神的に不安定になっていたり、対人恐怖、発達障害など抱えた方は、制度の申請もひとりではままならない実態も明らかになった。コロナ禍に応じた給付金や一時金の仕組みがあっても、その情報にたどりつけないひと、理解することが難解なひと、ひとりで手続きすることが難しいひとたちがとても多かった。手続きひとつも、伴走してサポートする支援の必要性を強く感じた。家庭が裕福な状態であっても、親と同居している社会人や学生などの若者がコロナ禍で仕事ができなかったり、アルバイトが減ったり、オンライン授業になったり、友人や恋人の家などに自由に行き来できなくなったことで（レスパイト先が絶たれる）、本来あった親や家族からの支配や精神的虐待が加速し、家から逃げたいという相談も相次いだ。今まで、ゆずりはの相談者の多くは生活困窮をしている一人暮らしの人が多かったが、経済的に安定している家庭で横行していた支配や虐待の現実もコロナによって可視化されたと感じる。親もとから逃げることを優先して、やむをえず大学を休学したり退学したりした人もいた。</p> <p>修学支援制度を利用して進学したひとが、オンライン授業のストレスなどから、学校を休学退学する人も少なくなかった。今後、大人になって、親や家族のもとから逃げてきた人が、引き続き学校に通えるような支援や修学支援制度を利用しているひとが休学などした際の生活支援なども必要になることが相談してくれたひとたちの声によって明らかになった</p>
-------------------	---

III. 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

①受益者	②課題	③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）（事業計画から転記）	④指標（事業計画から転記）	⑤目標値・目標状態（事業計画から転記）	⑥結果(定量化できるものは%も記載、最大100%)	⑦考察
生活困窮者	就業困難	生活保護申請の完了	相談件数(実数) 相談対応件数 電話、メール、同行など(述べて件数) 伴走支援できたことでの相談者の状況のレポート	支援対象者はコロナで影響を受けた 30歳未満 東京以外からの相談者5人	8人	30歳未満で東京以外の条件をつけたことで人数の達成を懸念したが目標数は達成できた。地方から逃れてくる生活困窮者の姿が浮き彫りにもなった
生活困窮者	その他	アパート契約手続き及び身元保証人等の請負	相談件数(実数) 相談対応件数 電話、メール、同行など(述べて件数) 伴走支援できたことでの相談者の状況のレポート	支援対象者はコロナで影響を受けた 30歳未満 東京以外からの相談者5人	10人	同上
生活困窮者	その他	医療支援 産婦人科同行 精神科の通院同行 役所手続き	相談件数(実数) 相談対応件数 電話、メール、同行など(述べて件数) 伴走支援できたことでの相談者の状況のレポート	支援対象者はコロナで影響を受けた 30歳未満 東京以外からの相談者25人	28人	18歳で妊娠出産をした受益者が1名いた。支援を必要な状態にある人ほど、支援を拒むような状況も多く見られた。

IV. アウトカム（事業実施以降に目標とする状況）*

事業実施以降に目標とする状況（事業計画から転記）	<p>ゆずりはの伴走支援を受けたひとが、公的な支援金を確保できて安心して生活ができていること。</p> <p>休学を必要としていた学生が休息の期間を経て復学している</p>
考察等	<p>屋根のある住まいを確保する、医療を受けられるように手続きする、支援措置をかけるなどの、生活していくための大前提となるような手続きまではある程度スムーズにいくが、その後の生活の維持や回復のところにこそ多くのサポートや時間が要することを感じた。</p>

V. 活動

活動	進捗	概要
生活困窮に陥った人からの相談対応	ほぼ計画通り	相談件数(実数) 8人 相談対応件数 (延べ件数) 電話90件 メール132件 同行14件
アパート契約手続き及び身元保証人等の請負	ほぼ計画通り	相談件数(実数) 10人 相談対応件数 (延べ件数) 電話122件 メール178件 同行24件数(実数)
医療支援 産婦人科同行 精神科の通院同行役所手続き	ほぼ計画通り	談件数(実数) 28人 相談対応件数 (延べ件数) 電話288件 メール312件 同行84件

VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

想定外のアウトカム、活動、波及効果など	特になし
---------------------	------

VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

課題を取り巻く変化	<p>困難な状況にあるひとにとって今必要なサポートをするため対応できるスタッフがいること、資金が潤沢にあることで、治療がすぐに開始できたり、判断や手続きも非常にスムーズになる。。サポートするためのお金の資金繰りをどうするか考えたり悩んだり申請している際に、症状がどんどん悪化することは、支援の現場では茶飯事である。必要なサポートのために柔軟に使える資金を持つことが、特別な助成金を得られた期間にとどまらず恒常的に持てることが必要だ。</p> <p>現状の制度を利用するとなると、例えば、仕事や学校を辞めたり、家族と離れたりなど（世帯分離のため）、手放したくないものまで手放すことを強いられたり、極端な決断を迫られることも多々ある。状況に応じて様子を見ながら、ゆるやかにサポートを受けていけるような細やかな支援が提供できることも大切だと改めて感じた。</p>
-----------	--

VIII. 他団体との連携

連携先	実施内容・結果
市役所 区役所の生活支援課	生活保護申請の手続き
本間不動産 コネクト不動産	アパートの契約など
こころとからだ光の花クリニック	特にトラウマケアが必要な方の通院先

IX. インプット ※事業完了月の月次収支管理簿の金額を入力ください。（精算金額と一致させる必要はありません）

		計画額	実績額	執行率
事業費	直接事業費	8,632,500	7,485,710	86.7%
	管理的経費	1,225,000	1,225,000	100.0%
合計		9,857,500	8,710,710	88.4%
補足説明		特になし		

X. 広報実績

広報内容	内容
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	
2.広報制作物等 当該事業費を使って製作したもの	
3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法（事例）	
4.報告書等	

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

①規程類※の整備実績	状況	内容
1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。	整備中	給与規定を5月末公開。コンプライアンスに関する規定は検討中。
2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。		
3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。	未公開	
4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。	変更はなかった	
②ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1.社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。	はい	
2.利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	はい	
3.関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。	いいえ	給与規定を5月末公開。他規定類は整備後公開を検討する予定。
4.コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置しましたか。	いいえ	現在の体制では設置が難しいため
5.ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。	はい	現在検討中
6.報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 (実施予定の場合含む) (複数選択可)	<input type="checkbox"/> 外部監査 <input checked="" type="checkbox"/> 内部監査 <input type="checkbox"/> 実施予定はない	
7.本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、または受領していますか。	いいえ	
8.内部通報制度は整備されていますか。	はい	JANPIAの窓口を利用